

がんごの 赤ひげ



有料老人ホーム「光風苑」入居者募集中



- P1 有料老人ホーム「光風苑」3月完成・入居者募集中
- P2 へつぎ病院長就任 挨拶
2015年4月 着任医師の紹介
- P3 保健指導からみたCKD対策の検討
- P4 天心堂 介護職養成研修センター開講にむけて
天心堂ICT導入
- P5 第2回 ちょっとそこまで、大南散歩。
本宮山の「磐座」

【天心堂の医療目標】 良質にして包括的な保健・医療・福祉を地域に提供する そして100年を超えて生きつづける医療を実践する

有料老人ホーム「光風苑」3月完成

天心堂だからできる充実のサポート体制 24時間365日対応

天心堂は、開設当初より、365日、24時間の医療提供を行い、地域医療と関わってきました。出かける医療(介護)・何とかする医療(介護)・みざる、言わざる、聞かざる医療(介護)はしない・予防し、治し、支える(介護)を活動方針としています。

光風苑へ入居される方、お一人、お一人に対して、この活動方針に忠実に対応させていただきます。あらゆる介護度の方へ、医療・介護のスタッフが責任を持って、安心・安全そして笑顔を提供させていただきます。



明るい陽が差し込む食堂



木の温もりを感じる2F食堂



ゆとりの2人部屋



機能的な1人部屋



くろぎの大浴場



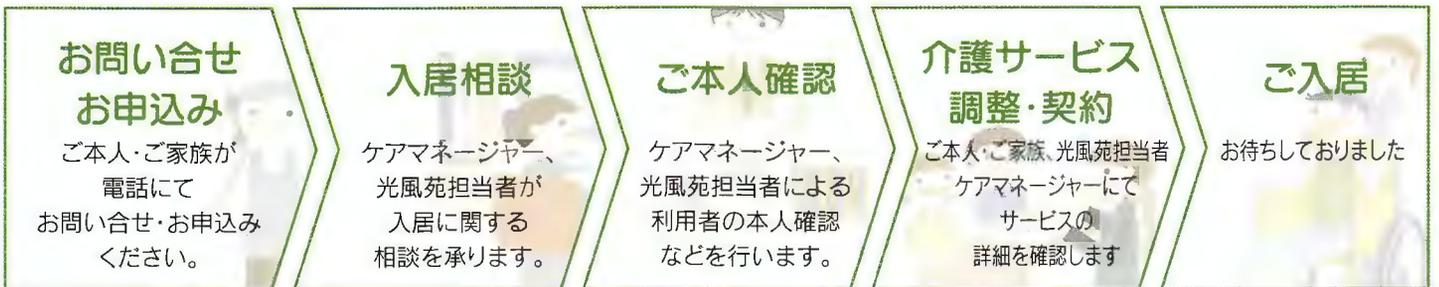
高齢者に安心のリフト浴

「光風苑」入居者募集中!!

お気軽にお電話ください。施設案内も随時行っております。

ご入居までの手順

※原則、要介護認定を受けている方が対象です。



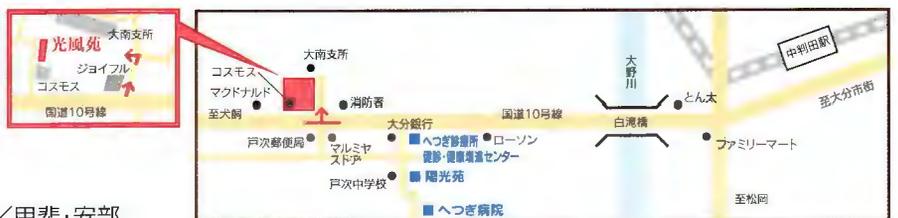
お問い合わせは…

〒879-7761 大分市大字中戸次字寺ノ内5111-1

TEL.097-597-6260

FAX.097-597-6259

担当/甲斐・安部



へつぎ病院長就任 挨拶

やすだ かずひろ
院長 安田 一弘



へつぎ病院は良質な保健・医療・福祉を提供し、地域社会及び文化の発展を目指す社会医療法人財団天心堂の医療部門を担うため1980年に設立されました。以後、2次救急病院、へき地医療拠点病院、病院機能評価Ver.1,0認定、災害時医療支援活動幹事病院などの指定を受け、緩和ケア病棟・内視鏡センター・透析センター・リハビリテーションセンターを開設してきました。今後はさらに急性期病院・地域医療を支える病院としての役割を果たす為、より安全で質の高い医療を提供できるよう取り組んでいきます。例えば、外科分野では高度な医療で患者さんの体にもやさしい内視鏡外科手術を積極的に展開し、患者さんが安らぎを感じる事ができる「ぬくもりある医療」を行う為に、他職種共同によるチーム医療に力を入れていきます。

更にこの地域の方々が治療を受けられたあとも安心して生活できるように、他の医療機関や福祉施設との緊密な連携を心がけ、医療協力体制の整備に一層力を入れていきますので、ご支援のほどよろしくお願い申し上げます。

2015年4月 着任医師の紹介

ご挨拶

この度、循環器内科・睡眠時無呼吸センター長に着任いたしました、田村です。最近話題の睡眠時無呼吸症候群(SAS)は一般成人の10~20%に見られ、生活習慣病・循環器疾患との関連が強いことが判明しています。SASと生活習慣病・循環器疾患を総合的に診る医療機関が大分になことから、当センターを4月から開設しました。循環器内科の方も当院における検査・治療のレベルを向上させ、他の合併疾患も含めて総合的に診断・治療できる体制を作り、地域医療に貢献していきたいと思っております。御協力よろしくお願いたします。



循環器内科
睡眠時無呼吸センター長
田村 彰

ご挨拶

この度へつぎ病院循環器内科部長として着任しました。循環器疾患とは心臓の疾患(狭心症、心筋梗塞、心不全、不整脈)や血管の疾患(閉塞性動脈硬化症など)を専門とする診療科です。また、高血圧症、脂質異常といったいわゆる生活習慣病の診断治療も行います。へつぎ病院は地域に密着した患者さんにやさしい医療の提供を行っています。患者さんとのコミュニケーションを第一に治療に取り組んでいきたいと思っております。病気について気になる事、心配な事など、なんでもお気軽にご相談ください。



循環器内科 部長
河野 嘉之

ご挨拶

この度へつぎ病院外科部長として着任しました。へつぎ病院は地域に密着した患者さんに優しい医療の提供を行っています。また高度な検査機器や内視鏡センターも備わっており、消化器内科医師と消化器外科医師共に連携が充実していますので、患者さんの状態に応じたより良い医療の提供ができると思っています。「おかしいな」と思ったらご遠慮なく、何でもご相談ください。



外科 部長
川崎 貴秀

はじめまして

この度へつぎ病院に勤務する事になりました小児科の新納です。小児科は乳児から学童までを主に、風邪や嘔吐下痢などの疾患に加え、水痘や流行性耳下腺炎、プール熱などの感染症、気管支喘息やアトピー性皮膚炎などのアレルギー疾患、てんかんなどの神経疾患にも対応してまいります。さらに病態によっては、漢方の処方も行います。疲れやすい冷え性、夏バテなどの体質改善だけでなく、アトピー性皮膚炎や気管支喘息などのアレルギー疾患、夜泣きや泣き入り、ひきつけ等の疾患など幅広く対応させて頂いております。なにか普段と違うなと思ったり、症状が長く続くなどの時には、お気軽にご相談ください。



小児科
新納 哲男

保健指導からみた CKD対策の検討

社会医療法人財団 天心堂 健診・健康増進センター
小野順子、清國久美、麻生久美子、松葉稔、松本泰祐



はじめに

高齢社会を迎え、慢性腎臓病(CKD)、それに伴う人工透析患者が増加している。本人の日常生活の不都合もさることながら、医療経済的にも大きな問題となっている。

そこで、CKDの予防、増悪を防ぐために、3年間の健診結果からその背景を検討し、適切な保健指導内容や生活指導法を探った。

対象

平成21年度と24年度の継続健診受診者1534名。男性912名(平均46.8歳±9.8)、女性622名(平均46.2歳±10.3)である。

方法

腎機能、BMI、血圧、脂質、肝機能、糖代謝における3年間の変化を検討した。統計処理は検定で行った。

更に、健診受診時の問診表による3年間の生活状況についても分析した。



看護副主任:小野順子

結果

男女ともにクレアチニン、e-GFRは有意に悪化していた。同時にHDL、尿酸の悪化も有意差を認めた。他に男性においては拡張期血圧が、女性においてはBMIと中性脂肪が有意に悪化していた。一方で、男女とも改善がGPT、血糖であり、男性ではLDL、 γ -GTP、女性では拡張期血圧、HbA1c等が改善していた。生活背景では男女ともに喫煙率は全国平均より高く、女性では肥満生活状況が推察された。一方、毎日飲酒減少、運動習慣増加などの生活改善意欲はみられた。しかし、血圧、糖尿病、脂質治療者が増加していた。



考察

今回の結果を踏まえ、CKDに対する保健指導内容は増悪因子である尿酸、HDL、拡張期血圧、肥満、中性脂肪の対応と考えた。基本的には個人別検査結果リスクと生活状況を把握し、個別に計画された食事指導、運動指導、生活指導が必要と考えた。

具体的には禁煙指導、肥満対策、更に薬物治療よりもまずは個人別リスクに対応した食事と運動、生活指導が優先されるべきである。

今後の問題点としては母集団を増やすと共に、CKDを対象とした詳細な分析の基で、CKD悪化予防及び発症予防の保健指導内容の検討が必要と考えた。

天心堂 介護職養成研修センター 開講にむけて



(介護職初任者(旧：ホームヘルパー2級)養成研修)

へつぎ診療所 総科長 三戸部由喜子(天心堂 介護職養成研修センター課題責任者)

大分県の高齢者の状況は、高齢者人口27.6%、75歳以上の後期高齢者人口は14.6%と県全体では全国平均並みですが、豊後大野市は、高齢者人口38.1%、75歳以上の後期高齢者は23.9%です。竹田市に至っては、高齢者人口41.4%、後期高齢者26.3%です。介護サービスの利用者数も、この10年で2倍近いのが現状です。

このような状況の中、介護職員数は、2025年には現在の2倍程度にあたる212万～255万人が必要という試算もあり、介護職員を安定的に確保するとともに、介護人材の質向上がますます重要となってきます。

開設以来、地域の保健・医療・福祉介護に取り組んでいる天心堂は、この加速していく高齢化社会に対し、介護職員の量と質の確保に貢献すべく、天心堂介護職養成研修センター(介護職初任者研修)開設の申請を行い、昨年11月に認可

を受け、2015年1月から開校しました。

介護職初任者研修は、従来の「ホームヘルパー2級」に該当する研修を再構築し、在宅・施設を問わず介護職として働く上で基本となる知識・技術を習得するもので、いわば介護職としてのスタートラインといえます。介護職初任者研修受講後、実務者研修を受け、国家資格である介護福祉士を目指す事もできます。今後ますます社会的に需要が増えてくる介護職員を養成するため、法人内の各専門職が、その豊富なスキルや体験を織り交ぜながら、介護職員初任者研修に取り組みます。

将来、受講した者、講師を経験した者、いずれもが医療・看護・介護の現場で肩を並べ、互いに成長し、介護を受ける側に立った安心・安全、そして心地よいケアの提供をしていきたいと思ひます。

介護初任者研修受講へのお問合せ先

天心堂 介護相談サービス 三戸部 電話/097-597-0300

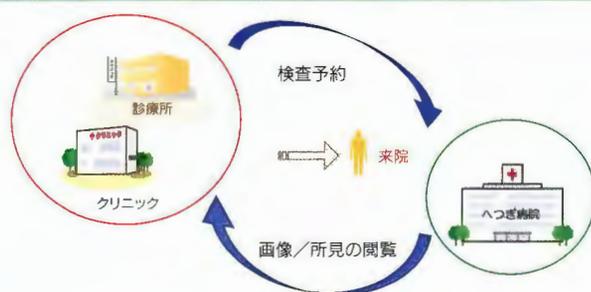
天心堂ICT導入

天心堂本部 地域連携部 部長 松本泰祐/副部長 三浦裕二

天心堂ICT(インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー)システムの導入は、天心堂医療部門の担い手であるへつぎ病院はもとより、システム課と地域連携部が中心となり2014年から計画を進めていましたが、補助金対象の可否などの問題もあり予定より若干遅れ2015年4月運用開始となりました。

天心堂ICTシステムは、開業医がインターネットを介しへつぎ病院へ検査や画像等の予約を行い、実施された検査結果を同じくインターネットを介してへつぎ病院から開業医へ報告できるという画期的なシステムです。

メリットとしては、開業医の先生方が診察時に患者さん



と相談しながら検査等の日時予約ができる事、診療情報提供や検査依頼がリアルタイムでへつぎ病院に届く事、検査結果や画像結果、読影結果などを次回患者さんが診察に訪れる前に確認できる事などあり、開業医の先生方の労力軽減を念頭に開発を進めてまいりました。

予約項目については当面「検体検査と画像(320列CTスキャンや1.5テスラMRI)」で運用を開始し、他の項目を順次取り入れ、医療連携の拡大をはかりたいと思ひます。

天心堂ICTシステムは、開業医の先生方と共に地域の皆様から頼りにされる良質な医療提供ツールの1つとして運用してまいります。

第2回

ちょっとそこまで、大南散歩。

本宮山の 「磐座」



天心堂へつぎ病院 医療福祉相談室 課長 天野誠司

「本宮山」をご存じでしょうか？戸次からは西の方角、上判田にそびえる大南では一番高い山です。標高は607.5m。元々は「ささむた山」と呼ばれていました。「ほんぐう」という山名は「西寒多神社の奥の宮」があったところから付いたものだそうです。西寒多神社の社伝によれば、宇佐神宮にも祀られている神功皇后が、韓国遠征からの帰り道にこの山に立ち寄ったことから山頂に祠が建てられ、山の名を取って「西寒多神社」と呼ばれました。室町時代になって大友家が山麓の寒田に現在の「西寒多神社」を建立し、山頂の祠を奥の宮にしたことにより、山の名前も「本宮山」に変わりました。

毎日何気なく見上げているそんな「本宮山」ですが、実は大変なモノが有ります。山頂を少し下ったところの奥の宮「本宮神社」の脇にそれは有ります。「石峰殿」と呼ばれる約10mの高さの巨石群が今回ご紹介する「本宮山の磐座(いわくら)」です。

「磐座」と書いて「いわくら」と読みます。純粋で原始的な自然崇拜において信仰の対象となる岩のことをこう呼びます。宗教儀式を行う場所としての神社や社殿といった建物が現れるのは平安時代以降のことです。それ以前の古代の人々は木や大岩の上に神様を呼び降ろして雨乞いをしたり、冬至・夏至の太陽を拝む等といった原始的な宗教儀式を執り行っていました。そうした祭祀の場所にあつて神

様の降臨する御座所となる岩を「磐座」と言います。「依り代(よりしろ)」も同じ意味です。

ここに掲載した小さな写真からどれほど感じ取って頂けるかもとないのですが、本宮山の磐座は凄い迫力です。十数年前私が初めて拝見した時も「あつ」と声が出ました。自然の岩と思えないほど左右が対称で、お不動さんの光背みたいな印象でした。多分、この岩を見つけた大昔の人達も何か神秘的なものを感じてこの岩を信仰の対象にしたのだと思います。そしてこの磐座への崇拝が受け継がれて、「西寒多神社」に結実した様に感じてなりません。「西寒多神社」も「奥の宮」も総ての始まりはこの「磐座」だったに違いないと思うのです。

中判田からも高江からも寒田からも登山道はあります。是非一度、「磐座」にお参りしてみてください。

